

令和5年度 第3回 伊予市部活動の地域移行に関する検討会議 会議録(概要)

日 時:令和6年2月 20 日(月)19 時~20 時30分

会 場:市役所 4 階大会議室

参加者:26 人

実証事業の報告について

- ・今年度、港南中学校の協力で野球部とバレー部で実証事業を計画した。実際に指導に入れたのは野球が5日間、バレーは指導者が病気になり指導できなかった。
- ・当初、部活動に大学生指導者を派遣してもらう予定だったが、県事業では、地域クラブへの派遣のみが補助対象だった為、実証事業の為に「港南クラブ」を設立していただいた。
- ・規約作成、保護者の同意、保険加入等学校と協議しながら準備を行った。
- ・事業を通じて多くの課題があった。(詳細は資料に掲載)
- ・この会議の内容が実証事業の保護者にも周知されていないようだ。事前に会議の内容が把握できる文書等を出せば保護者の理解が高まったのでは？
⇒会の会議録については、今回の資料に伊予市ホームページの掲載案を掲載している。伊予市広報への掲載等も含め、市民全体に周知できるよう、順次公表したい。

各中学校の部活動の状況について

- ・市の人口推計から作成した今後 10 年間の市内小・中学校の児童・生徒数予測資料を説明。2022年と2035年を比較すると、港南が約3割減、伊予が6割減、中山が8割減、双海が6割減で市全体では約4割減の見込みである。
- ・このことを踏まえて、市内4中学校の現在の部活動の状況をお聞きいただきたい。

【中山中】部活動は2種目。男子バレーボールが港南中と合同チームで実施している。女子バレーボールと男女のソフトテニスは単独実施している。来年度も同様の予定である。

【双海中】令和4年度までは全員入部制だったが、現在は希望選択制に移行した。令和5・6年度の2年間で部活動検討委員会を持ちながら今後の方向性を検討している。
現在はサッカー、剣道、バレー、吹奏楽、園芸ボランティア部がある。サッカーとバレーは生徒数・部員数減少により継続が非常に厳しい状況。バレー部等が廃部の場合、運動部活動の選択肢が剣道のみになるので、地域移行を視野に入れつつ、学校運営協議会や部活動検討委員会等で意見をいただきながら、個人競技に特化した部を創設する方向で進めていく予定である。

【伊予中】現在は軟式野球、男女テニス、女子バレー、男女バスケ、剣道(女子のみ)、吹奏楽があり、男子バスケ部は来年度の総体が終わると1~2人の状況なる。生徒の意向を確認した上で、可能な範囲で続けていく予定。多くのバスケ経験者はクラブチームに行っており、今後もその傾向は続く見込みである。女子バスケはクラブチームと部活動の掛け持ちの生徒が多いので今後

も同様であろう。外部のクラブに行っている生徒は全体で約20名程度である。

【港南中】生徒数が多く、今のところ部活動の編成を変える方向性の部はない。人数が少ない為に合同チームで実施しているのは女子ソフトのみ。軟式野球も昨年度までは合同チームだったが現在は単独チームで実施できている。今後も特に編成を変える予定の部はない。

⇒4校が全く違う状況の中、伊予市の方向性について今後議論していく。

【質問なし】

方針・計画の策定について

- ・資料に基づき方針案、計画案を説明。今回の市方針案は県方針や前伊予市方針等を参考に作成した。
- ・長期的な計画案としては、令和8年度までに休日の部活動を、令和11年度までに部活動全体の地域移行を完了させたいと考えている。時期の設定について意見をいただきたい。
- ・令和6・7年度は、休日の地域移行に向けた準備期間として、部活動を維持したまま受け皿の検討をする期間として設定した。
- ・併せて移行期間中の措置として拠点校方式の導入を推進する。詳細はその他で説明。
- ・来年度以降、近隣の高校、大学、企業、団体等にも部活動の地域移行に協力依頼する。協力団体等の提案があればいただきたい。
- ・本日の意見で修正し、4月に意見公募を実施し、次回検討会議で方針・計画を固めて正式に公表したい。

その他

- ・外部の協力者を募るイベントを実施していきたい。民間企業や団体、近隣の高校や大学、スポーツ協会等にも協力依頼していきたい。
- ・拠点校方式の概要について。当面、自校に希望する部活動ない生徒でかつ保護者の責任で送迎が可能な生徒に絞って、令和7年度から市内全域での導入を目指す。年度内に要項を整え、本格導入に向け準備していく。
- ・伊予市ホームページへの会議録概要の掲載について。早期に掲載できるよう準備中である。掲載後も修正可能であるので、内容をご確認いただきたい。

意見交換

- ・拠点校方式について。全域での導入前に要望があった場合の対応についてお聞きしたい。
⇒部活動指導員や外部指導員の導入も視野に入れ、学校と協議しながら可能な範囲で対応していきたい。
- ・中体連からの拠点校方式の文書では、在籍校に希望する部活動がないものと、専門的な指導が受けられない生徒を救済するためのものがあるが、伊予市は在籍校に希望する部活動がないものに限られるのか。

- ⇒伊予市は部活動の地域移行の過程での拠点校方式を考えているので、現時点では、在籍校に希望する部活動がないもののみを対象として考えている。
- ・拠点校は教育委員会が決定するものなので、伊予市の考え方を明確に発信し、各学校や保護者に確実に伝わる形にしないと混乱すると思う。
⇒対象者には文書で通知する。
 - ・吹奏楽について。伊予市では各学校で地域に根ざした活動がある。全ての学校に専門の指導者がいるわけではないが、距離や人数比、練習場所、費用負担の問題があるので、可能な限り各学校で活動する方が良いと思う。その場合、すぐに先生方に兼業申請を勧めるのではなく、外部指導者を探したり、学校内で練習場所の確保の工夫等の検討をしていただきたい。
 - ・民間からも伊予市の部活動地域移行に協力をしたいという提案もある。来年度以降、この検討会議にも協力団体の代表者等も入れながら話を進めていきたい。
 - ・今回の計画案に基づいて進めていくと、令和8年度には休日の活動が地域クラブになるが、費用の負担が出てくる。今後、保護者に対して応分の費用負担についても周知していく必要がある。
⇒参考として、令和5年度実証事業を基にした試算では、15名の部員に対し、1名の指導者の休日のみの謝金と保険料だけで年額約15,000円/人の負担となる。指導者は1名では足りず、消耗品や備品、施設借上料、遠征費等もあり、平日を加えるとさらに増額が見込まれるので費用軽減についても議論の必要がある。
 - ・年度ごとの部活動の地域移行の目標達成率を示すと良いと思う。
⇒事務局としては6年度、実際に動き出してから検討したい。
 - ・休日は8年度、完全移行は11年度という時期を1年ずつ後ろに延ばしてはどうか？
⇒計画案通りにいくかはわからないが、現時点ではこれで進めたい。学校、行政、保護者等が協力しながら、できることから進めていく。

(以下県担当者からのコメント)

- ・部活動の地域移行をご理解いただける資料がスポーツ庁のホームページに掲載されている。地域移行のメリットや進め方の説明もあるので、ご紹介いただくと理解が進むと思う。
- ・近隣の高校等と連携する等、広い目線で考えていく事も必要である。